

バイオマスの環づくり交付金(ソフト事業)

九州農政局

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
福岡県	-	福岡県全域地区	福岡県	(1)地域関係者へのバイオマス活用の理解醸成 ・シンポジウムの開催 1回 ・優良事例集作成 1,000部 ・土づくり運動の啓発 (3)バイオマスの種類に応じた活用の促進 ア 都道府県、市町村推進事業 (ア)バイオマス活用推進協議会の開催 ・推進協議会の開催 3回 ・畜産環境保全協議会の開催 7回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・土壌分析、診断指導 (ウ)畜産環境保全推進 ・実態調査、巡回指導 ・水質、臭気調査 ・堆肥共励会の開催 ・啓発資料の作成 イ 都道府県試験研究事業 (ア)土づくり ・定点調査 150点 ・有機質資源連用試験2ヶ所 ・有機質資源施用基準等設定栽培試験 1ヶ所 (ウ)食品残さ等肥料化・食品化実証 ・適正採取技術開発調査2地点 ・利用加工、保存技術開発試験 一式 ・機能性成分の検討 一式	H 17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		・バイオマスの有効活用に関する普及啓発を行い1365人認知 ・畜産関係者526人が畜産環境保全を認知 ・土壌分析、診断指導により農家275戸が土づくりを図る ・実態調査814戸、水質・臭気調査36戸を実施し畜産環境問題への対応を行った ・堆肥共励会1回開催し、啓発資料500部作成配布した ・定点調査、有機質資源連用試験等の結果により、土壌管理対策の資料とした ・適正採取方法の設定した ・試験加工500kgを行った ・重量比試算を行った ・原藻中の機能成分を把握	本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス活用の中期の方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行：バイオマスを活用した土づくりや環境保全型農業の推進、併せて未利用系バイオマスとして記載していなかった海藻(アカモク)について、水産加工品の製造や機能性成分の抽出により漁獲量の8割を利用」についても、堆肥など有機質資材の施用による土づくりや環境保全型農業を推進し、試験規模であるがアカモクの食品レベルでの利用では約9割の利用が可能となっており、目標の達成は確実である。 今後は、「福岡県バイオマス活用基本方針」で定めた目標を達成するため、市町村等の関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス活用の取り組みを推進していく。	-	福岡県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。		

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
福岡県	-	福岡県全域地区	福岡県農業用廃プラスチック適正処理推進協議会	(1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・市町村等協議会の職員を対象とした研修会の開催 1回 ・適正処理推進資料の作成 ポスター 200枚 チラシ 80,000枚 ・処理状況についての情報収集及び市町村等協議会への情報提供 2回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 都道府県・市町村推進事業 (ア)バイオマス活用協議会等の開催 ・適正処理推進協議会の開催 1回	H17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		・市町村等協議会職員に対し研修会1回(57人参加)実施、適正回収業者の処理状況(1回)及び各市町村等協議会の活動状況事例の情報提供(45協議会)を行った		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用の中期的方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行：使用済み資材(農業用廃プラスチック)の適正回収・処理体制を整備する」についても、市町村等協議会員をはじめとする関係者の適正回収・処理についての理解醸成は進んだものと認められ、目標の達成は確実である。 今後は、本事業結果を踏まえ、引き続き農業者に適正処理の啓発を図るとともに、県協議会及び市町村等協議会の活動をより一層活性化させ、資源のリサイクルや農村環境の保全に努め、施設園芸農業の健全な発展を図っていく。	事後評価の提出のあった福岡県農業用廃プラスチック適正処理推進協議会バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「福岡県バイオマス活用基本方針」に位置づけられた目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	福岡県農業用廃プラスチック適正処理推進協議会及び福岡県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
福岡県	うきは市	うきは地区	うきは市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・悪臭対策技術の実証展示 3技術 ・堆肥の成分分析 2点 ・畜産環境保全に関する講習会の開催 2回 ・資源循環型畜産確立推進委員会の開催 1回	H17	市町村利活用地区計画の策定		・農家5戸の意識が向上した ・豚ふん堆肥2点の成分を分析した ・農家5戸の意識が向上した ・利用率の目標を設定した		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜(豚)排せつ物の利用率に関する数値目標の設定」についても、平成18年3月29日付けで、うきは市の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、すでに目標である100%を達成しており、今後これを継続することは確実である。 今後は、「うきは市バイオマス利用地区計画」の目標の達成継続に向けて、うきは市、養豚組合、酪農部会、農協等の関係機関と緊密な連携を図った上で、畜産環境保全や良質堆肥の生産・流通促進などの取組を推進していく。	事後評価の提出のあったうきは市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「福岡県バイオマス活用基本方針」に位置づけられた目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	うきは市及び福岡県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
福岡県	立花町	立花地区	立花町	(1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・優良事例に対する調査 1式 (2)バイオマス利活用の中期的方針の策定 ・バイオマス利活用地区計画の策定 1式 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・協議会の開催 2回 (イ)食品廃棄物の利活用推進 ・堆肥の製造工程・製品の比較検討分析 1式 (5)バイオマスの変換技術支援 ・竹繊維を使ったプラスチック製品開発研究 1式	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・情報ネットワークの活用やセミナー参加による検討、反映を行った ・H18年3月17日策定した ・7団体が共同推進した ・堆肥化試験研究による検討、反映を行った ・新素材開発・評価等による検討、反映を行った		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマス利活用の中期的方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」、「バイオマスの変換技術支援」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：バイオマス利活用地区計画を策定し、具体的な数値目標を設定する」についても、中期方針のうち廃棄物系バイオマス(タケノコ加工残渣)の利用率90%、未利用バイオマス(竹材)の利用率40%を目標とした「立花町バイオマス利活用地区計画」(平成18年3月17日付で策定)及び平成18年度策定予定のバイオマスタウン構想に反映した上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「立花町バイオマス利活用地区計画」の数値目標の達成を目指すとともに、バイオマス利活用推進委員会等の関連機関と緊密な連携を図りながら検討・協議を行い、「立花町バイオマスタウン構想」の策定に向けた取組を推進していく。	事後評価の提出のあった立花町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「福岡県バイオマス活用基本方針」に位置づけられた目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	立花町及び福岡県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
佐賀県	-	佐賀県地区	佐賀県	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の推進 ア 都道府県推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会の開催 ・県推進委員会の開催 1回 ・地区推進委員会の開催 1回 ・有識者検討会の開催 1回 ・家畜排せつ物適正利用推進対策本部会議の開催 1回 ・家畜排せつ物適正利用推進対策地域支部会議の開催 3回 (イ) 土づくり普及啓発 ・先進事例調査等の実施 ・啓発資料等の作成(87,000部) ・環境保全型農業の実践に向けた指導等 (ウ) 畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物処理・利用状況の実態調査の実施 1回 ・立入検査の実施(家畜せつ物法対象農家の10%) (キ) 使用済み資材適正処理推進 ・実態調査(処理方法別排出量等)の実施 イ 都道府県試験研究事業 (ア) 土づくり ・土壌機能モニタリング調査及びデジタル土壌図の整備 ・化学肥料、堆肥等適正使用量調査 ・地力増進法に基づく調査</p>	H17	都道府県マスタープラン(廃棄物計90%以上利用又は未利用廃棄物40%以上利用)工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		<ul style="list-style-type: none"> ・「利活用推進モデル地区」を森林組合で実施した ・環境保全型農業に取り組む農業者が21%に増加した ・未達成(家畜排せつ物処理を簡易施設や処理施設を用いない方法で対応した農家が144戸になった) ・再生処理率5.8%に増加した ・環境保全型農業に取り組む農業者の割合が21%に増加した 		<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」に関連する個別成果指標のうち、畜産環境保全推進の取組については、個別成果指標を達成できなかった。 未達成となっている個別成果指標である「家畜排せつ物処理を簡易施設や処理施設を用いない方法で対応する農家の減少(141戸130戸)」については、県単事業(佐賀県耕畜連携・資源循環型農業推進事業)や補助付きリース事業等で恒久施設の整備を行うこととしており、平成19年度までには個別成果指標を達成する見込みである。 また、目標である「バイオマス利活用の中期的方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行:『佐賀県農山村バイオマス利活用マスタープラン』の事業実施期間中の履行(『2010年の数値目標廃棄物系バイオマス93% 99%未利用系バイオマス65% 79%』)については、平成16年11月に策定した「佐賀県農山村バイオマス利活用マスタープラン」の工程に沿って、未達成となっている畜産環境保全推進の取組も含めたバイオマス利活用の向上に関連する取組を推進することとしており、目標の達成は確実である。 今後は、「佐賀県農山村バイオマス利活用マスタープラン」の数値目標の達成に向けて、県をはじめとした、市町村、関係団体、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス利活用率の向上に向けた取組を推進していく。</p>	<p>佐賀県の評価のとおり、事業実施計画で定めた一部の個別成果指標を達成できなかったことから、改善計画の提出が必要である。 なお、特に目標及び個別成果指標の達成が見込まれない際には、佐賀県に対して目標達成に向けた指導等の措置を講ずることとする。</p>	平成18年11月未現在で、簡易対応農家は128戸となり、個別成果指標及び目標を達成した。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	-	長崎県地区	長崎県	<p>(1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・ポスターの作成配布 500部 ・啓発資料の作成配布 2,000部</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 都道府県推進事業 ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 8回 ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境実態調査 ・畜産環境保全指導 1,500戸 キ)使用済資材適正処理推進 排出を抑制するプラスチック等等の導入 技術導入 全市町村 イ 県試験研究事業 ア)土づくり ・土壌機能モニタリング調査 54箇所 ・化学肥料、たい肥等の適正使用指針策定に関する分析調査等 5箇所 ・地力増進法に基づく調査 10点 ・検討会の開催 2回 ウ)食品残さ等肥料化・食品化実証 ・製造技術の実証 2箇所 ・機器等の整備 1式</p> <p>(4)バイオマスの生産・収集・運搬システム構築 ・実証試験 1箇所</p>	H 17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行	<p>・事業の主旨農家2,000戸認知</p> <p>・1市がバイオマス構想策定準備</p> <p>・農家1,500戸が家畜排せつ物の適正方法を認知 ・県内全市町村が園芸用廃プラスチックの回収等の意識啓発</p> <p>・エコファーマーの増加911戸</p> <p>・高速堆肥化技術確立</p> <p>・生ゴミ分別収集260戸実証展示した。</p>	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」、「バイオマスの生産・収集・運搬システム構築」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用の中長期方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行」についても、平成17年8月に策定された、長崎県バイオマスマスタープランの工程に沿って、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、長崎県バイオマスマスタープランの数値目標達成に向けて、県をはじめとした、各市町、関係団体、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、さらなるバイオマス利活用の取組を推進していく。</p>	<p>長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>				
長崎県	島原市	島原地区	島原市	<p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 60戸</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定	<p>・バイオマス資源の処理・利活用を農家60戸認知</p>	<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定・家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月31日付けで、島原市の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「島原市バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった島原市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。</p>	<p>島原市及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>			

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	雲仙市	有明地区	島原市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 30戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス資源の処理・利活用を農家30戸認知		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月31日付けで、島原市(有明町)の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。今後は、「有明町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出のあった島原市(有明町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることとしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	島原市(有明町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
長崎県	雲仙市	国見地区	雲仙市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 29戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス資源の適正処理方法を農家29戸認知		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月31日付けで、雲仙市(国見町)の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。今後は、「国見町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出のあった雲仙市(国見町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることとしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	雲仙市(国見町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	雲仙市	瑞穂地区	雲仙市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 34戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス資源の適正処理方法を農家34戸認知		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月31日付けで、雲仙市(瑞穂町)の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。今後は、「瑞穂町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出のあった雲仙市(瑞穂町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	雲仙市(瑞穂町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
長崎県	雲仙市	吾妻地区	雲仙市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 40戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・処理・利用状況を農家40戸認知		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月31日付けで、雲仙市(吾妻町)の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。今後は、「吾妻町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出のあった雲仙市(吾妻町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	雲仙市(吾妻町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
長崎県	雲仙市	愛野地区	雲仙市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 30戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス資源の処理・利活用を農家30戸認知		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月31日付けで、雲仙市(愛野町)の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。今後は、「愛野町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出のあった雲仙市(愛野町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	雲仙市(愛野町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	雲仙市	千々石地区	雲仙市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 42戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス資源の処理・利活用を農家42戸認知		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月31日付けで、雲仙市(千々石町)の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「千々石町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出があった雲仙市(千々石町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることとしており、本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	雲仙市(千々石町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
長崎県	雲仙市	南串山地区	雲仙市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・実証調査畜産環境保全指導 37戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス資源の処理・利活用を農家37戸認知		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月31日付けで、雲仙市(南串山町)の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「南串山町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出があった雲仙市(南串山町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることとしており、本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	雲仙市(南串山町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	南島原市	加津佐地区	南島原市	(1)地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成 ・加津佐町耕畜連携・資源循環型推進協議会の開催 2回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 27戸	H17	市町村利活用地区計画の策定		・関係者がバイオマス利活用を理解した。 ・バイオマス資源の処理・利活用を農家27戸認知		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月30日付けで、加津佐町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「加津佐町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出があった南島原市(加津佐町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	南島原市(加津佐町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
長崎県	南島原市	南有馬地区	南島原市	(1)地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成 ・施設整備等検討会 4回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物法適用農家等の巡回指導 22戸	H17	市町村利活用地区計画の策定		・関係者がバイオマス利活用を理解した ・バイオマス資源の処理・利活用を農家22戸認知		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月30日付けで、南有馬町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「南有馬町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出があった南島原市(南有馬町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	南島原市(南有馬町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	南島原市	北有馬地区	南島原市	(1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・北有馬町資源循環型推進協議会の開催 2回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・環境保全巡回指導 75戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・関係者がバイオマス利活用を理解した ・バイオマス資源の処理・利活用を農家75戸認知		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月30日付けで、北有馬町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「北有馬町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出があった南島原市(北有馬町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	南島原市(北有馬町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
長崎県	南島原市	西有家地区	南島原市	(1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・西有家町耕畜連携・資源循環型推進協議会の開催 2回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・環境保全巡回指導 53戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・関係者がバイオマス利活用を理解した。 ・バイオマス資源の処理・利活用を農家53戸認知		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月30日付けで、西有家町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「西有家町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出があった南島原市(西有家町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	南島原市(西有家町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	南島原市	有家地区	南島原市	(1)地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成 ・耕畜連携協議会の開催 4回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 ・環境保全状況調査 46戸	H17	市町村利活用地区計画の策定		・関係者がバイオマス利活用を理解した。 ・バイオマス資源の処理・利活用を農家46戸認知		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月30日付けで、有家町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「有家町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出のあった南島原市(有家町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	南島原市(有家町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
長崎県	南島原市	布津地区	南島原市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・資源循環型畜産確立委員会の開催 2回 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境保全指導 10回	H17	市町村利活用地区計画の策定		・関係者がバイオマス資源の処理・利活用を理解した ・バイオマス資源の処理・利活用を農家27戸認知		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月30日付けで、布津町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「布津町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出のあった南島原市(布津町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	南島原市(布津町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	南島原市	深江地区	南島原市	(1)地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成 ・施設整備等検討会の開催 2回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物法適用農家等の巡回指導 65戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・関係者がバイオマス利活用を理解した ・バイオマス資源の処理・利活用を農家65戸認知		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物に関する数値目標を設定した「バイオマス利活用地区計画」の策定」についても、平成18年3月30日付けで、深江町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「深江町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の適正処理利用などの取り組みを推進していく。	事後評価の提出のあった南島原市(深江町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みと連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた利活用の促進の目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。	南島原市(深江町)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
長崎県	平戸市	大島地区	平戸市	(1)地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成 ・パンフレット 100部 ・会議等の参加 1回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・巡回指導 2回 ・牛舎状況調査 1回	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス資源の処理・利活用を農家80戸認知 ・バイオマス資源の処理・利活用を農家80戸認知		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成している。また、平成18年3月31日付けで、平戸市大島村の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行い2010年の数値目標を定め、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、平戸市大島村の「バイオマス利用地区計画」の数値目標達成に向けて、平戸市、農業協同組合、農業改良普及センター、認定農業者協議会、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス処理・利活用の理解醸成のための会議、畜産経営環境巡回指導を引き続き取組み、また、還元形態向上のために堆肥化処理施設・堆肥化処理技術の整備・習得などの取組を推進していく。	事後評価の提出のあった平戸市(大島村)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり、個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果をふまえ、これら市町村等との取組との連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、長崎県バイオマスマスタープランに位置づけているバイオマスの種類に応じた利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	平戸市(大島村)及び長崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
長崎県	壱岐市	壱岐地区	壱岐市	(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマスタウン構想策定に向けた検討の実施 (イ)土づくり普及啓発推進 ・家畜排泄物の適正処理と利用の推進 (ウ)畜産環境保全推進 ・環境保全実態調査指導 (カ)有機資源飼料化推進 ・焼酎粕処理物の家畜飼料としての活用検討	H 17	市町村利活用地区計画の策定		バイオマス利活用推進協議会を2回開催 効率的堆肥化施設処理量795戸把握 ・バイオマス資源の処理・利活用を農家92戸認知 未達成(関係企業との計画の調整が図れなかった)	×	事業実施主体 都道府県 農政局等	事後評価の提出があった壱岐市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり一部の個別成果指標が未達成となっており、目標も達成できなかったことから、改善計画の提出が必要である。 また、長崎県としては、事業実施主体である壱岐市に対して目標達成に向けた指導等の措置を講じることとする。	壱岐市及び長崎県の評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び一部の個別成果指標を達成できなかったことから、改善計画の提出が必要である。 なお、特に目標及び個別成果指標の達成が見込まれない際には、壱岐市及び長崎県に対して目標達成に向けた指導等の措置を講じることとする。	地域内の醸造メーカーと計画を十分に調整したのち、平成19年3月までに「壱岐市バイオマス利活用地区計画」を策定することとしている(改善計画により改善中)。
長崎県	西海市	西海地区	西海市	1. バイオマス利活用の推進 (8)バイオマスタウン構想の支援 ・西海市全域のバイオマス賦存量調査 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 4回 ・バイオマス総合利用システムの検討 ・パンフレット等の作成 13,000枚	H 17	バイオマスタウン構想書の工程表のうち実施期間中の工程部部の履行		・バイオマス総合利活用事業計画を策定した ・バイオマス認知のためのパンフレットを12,586戸に配布した		事業実施主体 都道府県 農政局等	本事業で設定した「バイオマスタウン構想の支援」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマスタウン構想書の実現・実績状況:バイオマスタウン構想書の工程表のうち事業実地期間中の工程部分の履行」についても、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「西海市バイオマスタウン構想」の目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス利活用の啓蒙普及活動等の取組を推進していくこととする。	西海市の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
熊本県	-	熊本県地区	熊本県	<p>(1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成推進 ・手引き書作成 ・研修会開催(市町村・事業者) ・アドバイザー派遣 ・地域に応じた事業計画等の支援</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・協議会、検討会等の開催</p> <p>(イ)土づくり普及啓発推進 ・農家の意向調査(堆肥利用等) ・地域間需給調整 ・研修会等の開催 (ウ)畜産環境保全の推進 ・県家畜排せつ物利用推進計画の改訂 ・研修会の開催 2回 ・堆肥コンクールの開催 ・検討会の開催 ・畜産環境調査の実施 処理状況等 悪臭発生等 ・畜産環境保全指導 2426戸 (キ)使用済生産資材の適正処理の推進 ・技術実証 1ヶ所 ・廃プラ処理をJA等に委託するシステムを補完するパンフの印刷</p> <p>イ県試験研究事業 (ア)土づくり モニタリング調査 30点 デジタル土壌図 35枚 有機物運用試験 2ほ場 施肥基準等設定試験 4ほ場 環境保全型土壌管理 2ほ場 地力増進対策 1地区</p> <p>(ウ)食品残さ等肥料化・食品化実証 ・ノリ酵素分解物の機能性の検索 ・ノリ乳酸発酵物の機能性の検索</p>	H17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行	<p>・68市町村のバイオマス利活用について周知した ・使用済み資材使用者及び「JA等関係機関1000名、適正処理について周知した</p> <p>・協議会構成団体の堆肥利活用推進を実施した</p> <p>・エコファーマー延べ認定数8,146戸(H18.1現在) ・計画改訂作業における意識向上が図れた</p> <p>・未達成(改訂作業中)</p> <p>・堆肥散布組織16組織</p> <p>× ・堆肥生産活動の改善149戸認知した ・畜産環境保全指導により家畜排せつ物適正処理の維持継続について2426戸認知した</p> <p>・適正処理率90%</p> <p>・未達成(施肥基準の改訂作業中)</p> <p>・エコファーマー延べ認定数8,146名(H18.1現在)に達成</p> <p>・ノリ及び乳酸発酵物の機能性を探索するとともに特性を把握した</p>	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用期間中の個別成果指標のうち、「熊本県家畜排せつ物利用推進計画」及び「施肥基準」の改訂については、個別成果指標を達成できなかった。 未達成となっている上記の個別成果指標については、県単事業を実施するとともに関係機関との連携を強化し、平成19年度を目標に、個別成果指標を達成する見込みである。 また、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：「都道府県マスタープラン」の工程表のうち、事業実施期間中の工程の履行」については、平成17年3月に策定した「熊本県バイオマス利活用基本方針」の工程に沿って、未達成となっている「熊本県家畜排せつ物利用推進計画」及び「施肥基準」の改訂作業も含めたバイオマス利活用の向上に関する取組を推進することとしており、目標の達成は確実である。 今後は、「熊本県バイオマス利活用基本方針」の数値目標の達成に向けて、これまで取り組んできた環境保全型農業の推進の一環として、土づくりの推進や化学資材等の過度の投入を抑制しつつ、循環させざることをできないものを極力排出しないような社会づくりを進めるとともに、排出されるバイオマス資源をマテリアルやエネルギー資源として再利用できるよう、再資源化の技術の開発・普及とあわせて、農・林・漁業者、食品産業事業者、消費者等の排出者と利用者を結びつける仕組みづくりを行うなど、循環型社会の構築に向けた取組を推進していく。</p>	<p>熊本県の評価のとおり、事業実施計画で定めた一部の個別成果指標を達成できなかったことから、改善計画の提出が必要である。 なお、特に目標及び個別成果指標の達成が見込まれない際には、熊本県に対して目標達成に向けた指導等の措置を講ずることとする。</p>	<p>関係機関との連携のもと、平成19年度内に県家畜排せつ物利用推進計画及び施肥基準を改定することとしている(改善計画により改善中)。</p>			

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
熊本県	-	熊本県地区	熊本県樹芸農業協同組合	1. バイオマス利活用の推進 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・利活用推進協議会の開催 2回 (キ) 使用済資材適正処理推進 ・栽培実証 5地区	H 17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		・バイオマス利活用検討会1回開催した ・現地検討会1回開催した ・技術普及活動パンフレットを300部作成・配布した ・生分解性ポット栽培30%実証		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関する個別成果指標を全て達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定」「バイオマス利活用計画」の工程表のうち、事業実施期間中の行程の履行についても、生分解性ポットの利活用の促進等の関連するバイオマス利活用の取組を推進することとしており、目標の達成は確実である。 今後は、「熊本県バイオマス利活用基本方針」の数値目標達成に向けて、熊本県等の関係機関と緊密な連携を図った上で、生分解性ポット栽培などのバイオマス利活用の取組みを推進していく。	事業評価の提出のあった熊本県樹芸農業協同組合のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら熊本県樹芸農業協同組合の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「熊本県バイオマス利活用基本方針」に位置づけているバイオマス製品の利用拡大の目標に向けた取組みが推進されるものと思慮する。	熊本県樹芸農業協同組合及び熊本県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考		
										事業実施主体	都道府県	農政局等			
熊本県	山鹿市	鹿本地区	山鹿市	1. バイオマス利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ア 普及啓発活動 ・啓発パンフの作成 3,000部	H 17	市町村利活用地区計画の工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		・2,800世帯の市民が資源循環型社会構築の必要性について認識した。		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」、「バイオマスの生産・収集・運搬システム構築」に関連する個別成果指標のうち、「再生バイオマス(堆肥・液肥)の利用」及び「家畜糞尿の収集及び農地への散布」の取組については、個別成果指標を達成できなかった。	事後評価の提出があった山鹿市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり、一部の個別成果指標が未達成となっていることから、改善計画の提出が必要である。 また、熊本県としては、事業実施主体である山鹿市に対して目標及び個別成果指標の達成に向けた指導等の必要な措置を講じることとする。	山鹿市及び熊本県の評価のとおりに、事業実施計画で定めた一部の個別成果指標を達成できなかったことから、改善計画の提出が必要である。 なお、特に目標及び個別成果指標の達成が見込まれない際には、山鹿市及び熊本県に対して目標達成に向けた指導等の措置を講じることとする。	再生バイオマス(液肥・堆肥)の利用については、平成19年度までに事業実施計画に定めた個別成果指標を達成することとしている(改善計画により改善中)。また、家畜糞尿の収集及び農地への散布についても、平成22年度までに事業実施計画に定めた個別成果指標を達成することとしている(改善計画により改善中)。		
				(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 6回 ・液肥利用推進委員会の開催 3回 ・堆肥利用推進委員会の開催 3回				・地区のリーダー的農業者一般住民及び農業関係機関、関係行政担当者46名がバイオマス利活用を認識						・未達成 (堆肥29 ha、液肥40 ha)	×
				イ) 土づくり普及啓発推進 f 実証ほ場の設置・運営 ・液肥栽培実証ほ場の設置(水稻・麦) 40ha ・良質堆肥実証ほ場の設置 1.5ha g環境保全型農業の実践に向けた巡回指導チームによる指導 ・巡回指導の実施 1名				・安全安心を基本とした野菜類の生産の必要性を各生産部会員が認識した						・施設園芸農家14戸、水稻生産農家32戸が液肥栽培技術について認識	・液肥栽培実証ほ場の設置40ha達成
			(4) バイオマスの生産・収集・運搬システム構築 ア 生産・収集・運搬システムの構築 ・収集運搬・散布等機器の整備				未達成 (家畜ふん尿処理量39t/日、堆肥8.5t/日、液肥32t/日)		×	本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」、「バイオマスの生産・収集・運搬システム構築」に関連する個別成果指標のうち、「再生バイオマス(堆肥・液肥)の利用」及び「家畜糞尿の収集及び農地への散布」の取組については、平成15年4月に策定した「山鹿市鹿本地区バイオマス利活用地区計画」の工程に沿って、未達成となっている「再生バイオマス(堆肥・液肥)の利用」及び「家畜糞尿の収集及び農地への散布」の取組も含めたバイオマス利活用の向上に関連する取組を推進することとしており、目標の達成に向け努力したい。 今後は、「山鹿市鹿本地区バイオマス利活用地区計画」の数値目標の達成に向けて、バイオマス活用についてさらなる地域の合意形成を図るための啓発活動を継続し、バイオマスの100%活用及び再生バイオマス(堆肥・液肥)の広域利用による環境保全型農業の普及拡大などの取組を推進していく。					

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
熊本県	植木町	植木地区	植木町	1. バイオマスの利活用の推進 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会等の開催 協議会の開催 ・植木町資源循環型農業推進協議会の開催 2回 ・植木町資源循環型農業ワーキンググループの開催 1回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・施肥効果試験の実施 4戸、80a ・土壌改良効果調査のための投入資材の作製、土壌分析等 450点	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<ul style="list-style-type: none"> 畜産農家等から構成される協議会による関係者の一体的な取組が推進した 広報誌掲載資料を作成した 植木町内農家の93.5%がバイオマス利活用の重要性を認知 植木町内農家の98.8%が堆肥利用による土づくり推進の必要性を認知 		<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の目標値として示されている家畜排せつ物の利活用率を炭素量換算で71%から90%に改訂」についても、平成18年3月8日付で、植木町の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「植木町バイオマス利用地区計画」の数値目標達成に向けて、熊本県、植木町、鹿本農業協同組合、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス利活用に係る啓発活動等の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった植木町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取組と連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「熊本県バイオマス利活用基本方針」に位置づけている家畜排せつ物の適正処理利用の取組などが推進されるものと思慮する。</p>	<p>植木町及び熊本県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
熊本県	合志市	合志地区	合志町土壌改良組合	1. バイオマス利活用の推進 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 2回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・土壌分析調査結果をふまえた適正肥料の検討	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<ul style="list-style-type: none"> 合志町土壌改良組合員17名が地元堆肥を利用した土づくりの必要性を認知した タバコに適した土づくりの技術を取得した 土壌分析調査結果をふまえた適性堆肥の検討を行った 組合員の堆肥利用率100%達成 		<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針のうち家畜排せつ物の利用率を90%へ改訂」についても、平成18年3月31日付で合志市(合志町)の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「合志町バイオマス利用地区計画」の数値目標達成に向けて、合志市、合志町土壌改良組合、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、堆肥の投入や土壌分析などの取組を推進していく。</p>	<p>事業評価の提出のあった合志町土壌改良組合のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら合志町土壌改良組合の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「熊本県バイオマス利活用基本方針」に位置づけているバイオマス利活用による土づくり推進などの目標に向けた取り組みが推進されるものと思慮する。</p>	<p>合志町土壌改良組合及び熊本県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考		
										事業実施主体		都道府県		農政局等	
大分県	-	大分県地区	大分県	<p>1. バイオマス利用の推進 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の推進 ア都道府県推進事業 (7)バイオマス利活用推進協議会の開催</p> <p>(イ)土づくり普及啓発推進 ・土づくり、堆肥適正処理研究会の開催 2回</p> <p>(ウ)畜産環境保全の推進 1.巡回指導 (1)畜産経営環境実態調査 ・家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律第3条の管理基準に該当する農家に関して現状調査を行うとともに、苦情発生状況等の調査を行い、バイオマス資源として適切な処理を指導する(1,159戸) (2)畜産環境保全指導 ・県内の重点指導農家に対して、畜産環境アドバイザー等が中心に巡回指導を行い、バイオマス資源である家畜排せつ物の堆肥化及びその利活用を指導する 200戸 2.啓発資料の作成 (1)畜産環境指導マニュアルの作成 ・県内の畜産農家に対して家畜排せつ物の適正処理方法・事例紹介等を載せたパンフレットを作成し、良質堆肥製造体制を構築する 1,500部(農家1,200、市町村300) (2)会議資料の作成 ・推進会議に際して、関係団体等へ配布する資料の作成 240部(市町村、関係団体) 3.会議 ・県推進協議会 ・大分県畜産環境保全推進指導協議会を中心に家畜排せつ物の適正処理と利活用を図るため、県内各地域毎に関係市町村・畜産関係団体を招集し、地域における家畜排せつ物のバイオマス利用率向上に向けた会議を行う。 13回(県全体1回、地域12回) (オ)木質バイオマスの利活用推進 1.未利用木質資源供給システム検討会の開催(大分西部地域及び大分南部地域で各3回開催) 2.発電用熱源実用化委託事業の実施</p> <p>(キ)使用済生産資材の適正処理の推進 ・生分解性プラスチック等を使用した実証試験の実施</p>	H 17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行	<p>・バイオマス利活用推進協議会を1回開催し県等関係機関の実施状況の検証を行った ・未達成82%</p> <p>・未達成 82%</p> <p>×</p> <p>・未達成 90% ・未達成 55% ・未達成 11%</p>	<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」に関連する個別指標のうち、「大分県バイオマス総合利活用マスタープラン」の以下のバイオマス利用率の向上については、個別成果指標を達成できなかった。 家畜排せつ物の利用率:82%から85%へ増加 木くずの利用率:90%から91%へ増加 間伐材の利用率:55%から56%へ増加 食品廃棄物の利用率:11%から14%へ増加 未達成となっている上記の個別成果指標については、平成18年度も引き続き、「土づくり普及啓発推進」、「畜産環境保全の推進」、「木質バイオマスの利活用推進」、「使用済生産資材の適正処理の推進」の取組を行うこととしており、平成22年3月までに、個別成果指標を達成する見込みである。 また、目標である「バイオマス利活用の中期的方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行」については、平成16年10月に策定した「大分県バイオマス総合利活用マスタープラン」の工程に沿って、未達成となっている上記の取組も含めたバイオマス利活用の向上に関連する取組を推進することとしており、目標達成は確実である。 今後は、「大分県バイオマス総合利活用マスタープラン」の数値目標達成に向けて、県をはじめとした市町村、大分県農業廃資材適正処理推進協議会、農家等の関係機関と緊密な連携を図ったうえで、研究開発やシステムの検討などのバイオマス利活用の取組を推進していく。</p>	<p>大分県の評価のとおり、事業実施計画で定めた一部の個別成果指標を達成できなかったことから、改善計画の提出が必要である。 なお、特に目標及び個別成果指標の達成が見込まれない際には、大分県に対して目標達成に向けた指導等の措置を講じることとする。</p>	<p>平成18年度以降も引き続き「土づくり普及啓発推進」、「畜産環境保全の推進」、「木質バイオマスの利活用推進」、「使用済生産資材の適正処理の推進」の取組を行うこととしており、平成22年度までに個別成果指標を達成することとしている(改善計画により改善中)。</p>					

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
				<p>イ都道府県試験研究事業 (7)土づくり ・土壌機能モニタリング調 4 地区 ・有機物連用試験 3課題 ・施用基準等設定栽培試験 2 課題 ・環境保全型土壌管理調査 1 回 ・地力増進に基づく調査 1回</p> <p>(9)食品残さ等肥料化・食品化 実証 水産加工廃棄物の食品化試 験一式 ・廃棄物系バイオスの利活用 のうち、水産廃棄物の有効活 用を図るため、「水産加工廃 棄物の食品化実証プロジェクト」 の一環として、水産試験場 での養殖フリ加工残渣食品化試 験を実施する。 フリ加工残渣の利用開発 ・食品利用（魚醤油、調味料 等、新製品開発） ・飼料肥料化 再加工時残渣の資源化 機能性成分利用可能性検 討 成果普及会議の開催 養殖関係者等に対する研究 結果の報告 30名</p>				<p>未達成 82%</p> <p>・加工業者、漁業関係者、市町 村関係者等30名を対象に研究 成果普及会議を行い、フリ加 工残渣資源化の必要性と技術 を認知した</p>					
大分県	-	大分県地区	大分県農業廃資 材適正処理推進 協議会	<p>1. バイオマス利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス 利活用の理解醸成 普及啓発 ・ラジオCM</p> <p>・普及啓発資料作成(ハソレット 125千部)</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた 利活用の促進 ア. 都道府県、市町村推進事 業 キ)使用済資材適正処理推進 ・協議会の開催(2回) ・現地指導(2回) ・処理実態等調査(1回)</p> <p>・生分解プラスチック等使用した 実証試験</p>	H 17	都道府県マス タープランの工 程表のうち実施 期間中の工程 部分の履行		<p>・廃資材の適正処理について のラジオCMを191回放送</p> <p>・農業者99.9%が生産資材の適 正処理を理解 (138,000部)</p> <p>・協議会を12ヵ所で開催した ・現地指導を12ヵ所で開催した ・処理実態調査を12ヵ所で実 施した ・実証試験を2ヵ所実施した</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者 へのバイオマス利活用の理解醸 成」、「バイオマスの種類に応じた 利活用の推進」に関連する個別成 果指標をすべて達成しており、なお かつ、目標である「バイオマス利 用のための数値目標の改訂：平成 17年度再生利用率70%」につい ても、廃資材の適正処理に関するバ イオマス利活用の取組みを推進す ることとしており、目標の達成は確 実である。 今後は、「大分県バイオマスマス タープランの数値目標達成に向け て、地元農家等の関係機関と緊密 な連携を図った上で、協議会を通 じた普及活動等の取組を推進して いく。</p>	<p>事後評価の提出のあった大分 県農業廃資材適正処理推進協 議会バイオマスの環づくり交付金 事業については、点検評価した 結果、以下のとおり個別成果指 標及び目標を達成していると認 められる。本事業結果を踏まえ、 これら関係団体等の取り組みと 連携を図り、バイオマス関連施策 を効率的かつ適確に実施してい くこととしており、大分県マス タープランに位置付けている廃棄物 系バイオマスの利活用率の向上 の目標に向けた取り組みが推進 されるものと思慮する。</p>	<p>大分県農業廃資材適正処理推 進協議会及び大分県の総合評 価のとおりに、事業実施計画で定 めた目標及び個別成果指標の 達成は確実であり、今後ともバ イオマス利活用の推進に向けた取 組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
大分県	日田市	日田地区	日田市	1. バイオマス利用の推進 (4) バイオマスの生産・収集・運搬システム構築 ・豚糞尿収集運搬車の整備 2台 ・液肥運搬・散布車等の整備 2台 ・堆肥運搬車の整備 1台	H17	バイオマスタウン構想の公表		未達成(88.3%)	×	<p>本事業で設定した「バイオマスの生産・収集・運搬システムの構築」に関する個別成果指標である「廃棄物系バイオマスの利活用率90%以上」の取り組みについては、個別成果指標を達成できなかった。</p> <p>未達成となっている個別成果指標である「廃棄物系バイオマスの利活用率90%以上」については、平成18年度も引き続き、「バイオマスの生産・収集・運搬システムの構築」の取組を行うこととしており、平成22年3月までに、個別成果指標を達成する見込みである。</p> <p>また、目標である「バイオマスタウン構想へのステップアップ年度：平成17年度」については、平成17年6月13日に策定した「日田市バイオマスタウン構想」の工程に沿って、未達成となっている「バイオマスの生産・収集・運搬の構築」の取組も含めたバイオマス利活用の向上に関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「日田市バイオマス利用土地計画」の数値目標達成に向けて、県、農協、畜産農家、耕種農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、メタン発酵発電施設や木質バイオマス発電施設の利用等を通じた取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった日田市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標が未達成となっていることから、改善計画の提出が必要である。</p> <p>また、大分県としては、事業実施主体である日田市に対して目標及び個別成果指標の達成に向けた指導等の必要な措置を講じることとする。</p>	<p>日田市及び大分県の評価のとおりに、事業実施計画で定めた一部の個別成果指標を達成できなかったことから、改善計画の提出が必要である。</p> <p>なお、特に目標及び個別成果指標の達成が見込まれない際には、佐賀県に対して目標達成に向けた指導等の措置を講じることとする。</p>	<p>平成18年度以降も引き続き「バイオマスの生産・収集・運搬システム」の構築に関する取組を行うこととしており、平成22年度までに個別成果指標を達成することとしている(改善計画により改善中)。</p>

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体			
										都道府県	農政局等		
宮崎県	-	宮崎県地区	宮崎県	<p>1. バイオマス活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス活用の理解醸成 ア 普及啓発活動 ・家畜排せつ物由来のたい肥等の利用による農業生産の促進のための普及啓発資料作成 4,000部 ・家畜排せつ物の適正処理及び利用促進に関する情報誌作成250部 ・農業用廃プラスチックの適正処理の啓発 4回 ・土づくり優良事例調査等の実施 1回</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 都道府県推進事業 7,178戸 (ア) バイオマス活用協議会等の開催 ・土づくり協議会等の開催一式 ・土づくり推進のための研修会の開催 7カ所 ・県家畜排せつ物利用促進協議会の開催 一式 ・地域家畜排せつ物利用促進協議会の開催 ・県及び各地域における堆肥共励会の開催 ・県農業用廃プラスチック協議会の開催 ・地域農業用廃プラスチック協議会の開催 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・耕種農家における堆肥利用実態調査 200戸 (ウ) 畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 3,000戸 ・畜産環境保全巡回指導 随時 ・堆肥生産・利用技術指導 一式 ・悪臭測定(10件)、水質検査(50件) ・技術者養成 イ 県試験研究事業 (ア) 土づくり ・土壌定点調査 50地点 ・環境保全土壌管理調査 1箇所 ・有機物連用基準設定試験 2箇所 ・環境保全型有機質資源施用基準設定調査 2箇所 (ウ) 食品残さ等肥料化・食品化実証 ・魚煮汁乳化液使用加工品の開発 1回 ・魚煮汁乳化液使用加工品の抗酸化性把握試験 1回 ・魚煮汁乳化液使用加工品の機能性把握試験 1回 ・魚煮汁を使用した加工品の開発 1回</p>	H 17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		<p>・県内の農業指導者及び農家6,000名が有機物を利用した土づくりの必要性を認知した ・畜産関係者250名が家畜排せつ物の適正処理及び利用方法を認知した ・農業用廃プラスチックの適正処理啓発をした</p> <p>・たい肥を利用した土づくりの重要性を認知した ・堆肥共励会、研修会(7回)を開催し農家等200人が良質堆肥生産技術を取得した</p> <p>・耕種農家200戸がたい肥の利用実態を認知した</p> <p>・県内3,000戸の家畜排せつ物の処理状況を認知した ・バイオマス活用施設の性能調査を行うことで施設能力を認知した ・畜産アドバイザーを98名育成した</p> <p>・土壌定点調査、土壌管理調査の結果をふまえた施肥施用基準の検討を行った</p> <p>・魚煮汁乳化液による抗酸化作用を利用した加工食品を開発し、普及を図った</p>	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関する個別成果指標を全て達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス活用のための数値目標設定：平成21年農業用廃プラスチックのデポジット制度による回収率90%、平成21年家畜排せつ物利用率85%へ改訂」についても、平成18年3月に「宮崎県バイオマス総合活用マスタープラン」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「宮崎県バイオマス総合活用マスタープラン」の数値目標の達成に向けて、宮崎県をはじめ、宮崎県良質たい肥流通促進協議会、市町村、各農業関係機関と緊密な連携を図った上で、畜産環境保全の推進や土づくり普及啓発などの取り組みをさらに推進していく。</p>	<p>宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>			

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	小林市	小林地区	小林市	<p>1 バイオマスの利活用の推進 (2) バイオマス利活用の中期的方針の策定 ア 市町村におけるバイオマスタウン構想の策定 ・「小林市バイオマスタウン構想」の策定 ・先進事例調査 1回</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 3回 ・堆肥生産技術講習会の開催 1回 ・委員会の開催 3回 ・専門委員会の開催 1回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・土づくり講習会の開催 3回 ・堆肥実証ほの設置 3ヶ所 10a ・堆肥流通促進パンフの作成 1,000部</p> <p>(ウ) 畜産環境保全の推進 ・施設整備推進会議 2回 ・畜産経営環境実態調査 2回</p>	H 17	バイオマスタウン構想の公表		<p>・平成18年2月28日に公表した</p> <p>・バイオマス利活用推進協議会に参加した9団体が共同推進した ・農家50人が良質堆肥の生産技術を習得した</p> <p>・農家50戸が堆肥利用による土づくり推進の必要性を認知した ・生産農家が品目毎に適した堆肥を選び利用した</p> <p>・20戸の農家が施設整備の推進を行った</p>	<p>本事業で設定した「バイオマス利活用の中期的方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマスタウン構想へのステップアップ年度：平成17年度」についても、平成18年2月28日付で、「小林市バイオマスタウン構想」を策定し、今後関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「小林市バイオマスタウン構想」の数値目標達成に向けて、小林市、小林地区森林組合、こばやし農業協同組合、地元農家等の関係機関と緊密な関係を図った上で、バイオマス利活用協議会の開催や未利用バイオマス利活用実証試験等の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった小林市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>小林市及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>		
宮崎県	都農町	都農地区	都農町	<p>1. バイオマスの利活用の推進 バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用協議会等の開催 4回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産実態調査 1回</p> <p>(ウ) 畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 1回</p> <p>(エ) 食品廃棄物の利活用推進 ・実証ほの設置 きゅうり 1箇所 20a 大玉トマト 2箇所 30a</p> <p>バイオマスの生産・収集・運搬システムの構築 ・食品廃棄物実態調査 5地区</p> <p>バイオマス資源収集・運搬一般世帯食品廃棄物 120世帯 事業所食品廃棄物 6事業所</p>	H 17	バイオマスタウン構想の公表		<p>・11団体が4回共同推進を行った</p> <p>・堆肥生産実態調査を1回行い、農家200戸が必要性を認知した</p> <p>・畜産経営環境実態調査を1回行い、畜産農家70戸が家畜排せつ物の適正処理方法を認知した ・実験プラント(1施設)による成果分析等の認知及び実証ほ場3箇所(50a)を設置した</p> <p>・5地区で食品廃棄物に対する意識向上と循環型農業に対する認知を行った ・2地区で収集・運搬手段の確立によるマニュアル作成及び当該マニュアルを利用した啓発をし、認知を行った</p>	<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」、「バイオマスの生産・収集・運搬システムの構築」に関連する個別成果指標は全て達成しているが、目標である「バイオマスタウン構想へのステップアップ年度：平成17年度」が未達成となっている。</p> <p>未達成となっている目標である「都農町バイオマスタウン構想」の策定については、課題となっている「事業主体の再編」及び「新たな5地区の資源収集システムの確立」を早期に解決し次第、平成18年度内にはバイオマスタウン構想が策定できる見込みにあることから、平成18年度内には目標を達成する見込みである。</p> <p>今後は、「都農町バイオマスタウン構想」の数値目標達成に向けて、都農町、各農協、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、啓蒙活動や各事業推進などの取組を支援していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった都農町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、各個別成果指標は全て達成しているが、目標が未達成となっていることから、改善計画の提出が必要である。</p> <p>また、宮崎県としては、事業実施主体である都農町に対して目標の達成に向けた指導等の必要な措置を講じることとする。</p>	<p>都農町及び宮崎県の評価のとおり、事業実施計画で定めた個別成果指標は全て達成できたが、目標が達成できなかったことから、改善計画の提出が必要である。</p> <p>なお、特に目標及び個別成果指標の達成が見込まれない際には、都農町及び宮崎県に対して目標達成に向けた指導等の措置を講じることとする。</p>	<p>平成18年3月現在で、「都農町バイオマスタウン構想」が九州農政局に提出されており、公表に向けた手続きが開始されており、目標を達成した。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	宮崎市	高岡地区	宮崎市	1.バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物の堆肥利用促進のための普及啓発資料作成 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の推進 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 年1回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・実施展示圃の設置 (ウ)畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物処理の実態調査	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス利活用に係わる関連情報の提供を行った		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：堆肥の生産・利用を現状より1割増す」についても、平成18年3月に「高岡町バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「高岡町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な関係を図った上で、バイオマス利活用協議会の開催や未利用バイオマス利活用実証試験等の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった宮崎市(高岡町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	宮崎市(高岡町)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	国富町	国富地区	国富町	1.バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物の堆肥利用促進のための普及啓発資料作成 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の推進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 年1回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・実施展示圃の設置 (ウ)畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物処理の実態調査	H 17	市町村利活用地区計画の工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		・農家1,400戸が認知した ・担当課による広報を行った		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：バイオマス利活用計画において、たい肥・現状85,510tから目標104,299t」についても、平成18年6月9日付で、国富町の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「国富町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、国富町、JA宮崎中央、クリーンセンター、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、さらなるバイオマス利活用の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった国富町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	国富町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	綾町	綾地区	綾町	<p>1.バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物の堆肥利用推進のための普及啓発資料作成</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 年1回</p> <p>(イ)土づくり普及啓発推進 ・実施展示圃の設置</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物処理の実態調査 ・環境保全指導</p>	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ	<p>・バイオマス利活用に係わる関連情報の提供を行った</p> <p>・バイオマス利活用推進協議会を1回開催した ・堆肥生産技術研修会を行った</p> <p>・堆肥利用による土づくりの推進必要性を認知した</p> <p>・家畜排せつ物適正処理方法を認知した</p>	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の目標値のうち家畜排せつ物投入比率を40%に引き上げる」についても、平成18年3月に綾町の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「綾町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、さらなるバイオマス利活用の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった綾町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけられているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	綾町及び宮崎県の総合評価のとおりに、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。			
宮崎県	日南市	日南地区	日南市	<p>1.バイオマスの利活用の推進 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用協議会等の開催 2回 ・日南市畜産環境保全推進部会の開催 1回</p> <p>(イ)土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産利用に対する農家意向調査</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 50戸</p>	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ	<p>・8団体が共同推進を行った</p> <p>・70戸の堆肥利用に対する意見の集約を行った</p> <p>・農家50戸が家畜排泄物の適正処理方法を認知した</p>	<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の目標値のうち家畜排せつ物利用率を80%へ改訂」についても、平成18年3月に「日南市バイオマス利活用地区計画」を改訂し、今後関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「日南市バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、日南市、農協、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、啓発活動や各事業推進などの取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった日南市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけられているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	日南市及び宮崎県の総合評価のとおりに、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。			

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	串間市	串間地区	串間市	1.バイオマスの利活用の推進 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 1回 ・良質堆きゅう肥生産技術研修会の開催 1回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産実態状況調査 1回 ・良質堆きゅう肥利用促進啓発資料の作成 200部 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産環境指導マニュアルの作成 120部	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<ul style="list-style-type: none"> ・11団体がバイオマス利活用を共同推進した ・農家20人が良質堆肥の生産技術を習得した ・堆肥利用による土づくり推進の必要性を農家50人が認知した ・畜産農家の90%が家畜排泄物の適正処理方法を認知した 		<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の中で、家畜排泄物の利利用率61.8%である。畜産農家から耕種農家への堆肥供給の目標を10%増加させる。」についても、平成18年3月に串間市の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「串間市バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、串間市、各農協、南那珂森林組合、各漁協、酒造業者、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、啓蒙活動や各事業推進などの取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった串間市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>串間市及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
宮崎県	北郷町	北郷地区	北郷町	1.バイオマスの利活用の推進 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 1回 ・良質たい肥生産技術講習会 1回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産実態状況調査 2回 ・農家の意向調査 1回 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境調査 3戸	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス利活用を共同推進した ・農家20名が生産技術を習得した ・農家20戸が堆肥利用による土づくりの推進の必要性を認知した ・農家3戸が家畜排泄物の適正処理方法を認知した 		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標もすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：平成21年家畜排せつ物利用率100%」についても、平成18年3月に美郷町(北郷村)の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「北郷村バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、啓蒙資料作成や、推進協議会の開催等の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった美郷町(北郷村)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>美郷町(北郷村)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	南郷町	南郷地区	南郷町	1.バイオマスの利活用の推進 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 3回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・土作り技術講習会の開催 1回 ・堆肥生産実態状況調査 1回 ・土作り啓発資料の作成 1,000部 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 20戸 ・畜産環境指導マニュアルの作成 100部	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		・5団体がバイオマス利活用を共同推進した ・農家50戸が土づくり推進の必要性を認知した ・畜産農家20戸が家畜排泄物の適正処理方法を認知した		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物利用率80%を目標とする。」についても、平成18年3月に南郷町の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「南郷町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、南郷町、農協、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、啓発活動や各事業推進などの取組を推進していく。	事後評価の提出のあった南郷町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	南郷町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	都城市	都城地区	都城市	1.バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・啓発資料作成 3,000部 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・検討会開催 2回 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 100戸	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		・資料3,000部を作成し、市内農家に配布した ・検討会を2回開催した ・農家100戸が家畜排せつ物の適正処理方法を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の目標値のうち家畜排泄物の利活用率を80%へ改訂」についても、平成18年3月に都城市の「バイオマス利活用地区計画」を改訂した上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標達成は確実である。 今後は、「都城市バイオマス利活用地区計画」を基本とし、合併後についても各総合支所、JA、県等関係機関との情報交換、連携を図りながらバイオマス利活用の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった都城市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	都城市及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	三股町	三股地区	三股町	<p>1.バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・良質堆肥研修会の開催 ・畜産環境保全啓発資料配布 ・現地指導</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (イ)土づくり普及啓発推進 ・堆肥成分分析 ・堆肥無料配布</p>	H17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<p>・良質堆肥研修会を年1回開催し20名参加した ・畜産環境保全啓発資料を300部郵送した ・子牛検査時年6回、戸別訪問年5戸で現地指導を行った</p> <p>・堆肥成分分析を年4回行った ・堆肥無料配布を町内各小学校6校で行った</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物利用を80%へ改訂」についても、平成18年3月に、三股町の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標達成は確実である。</p> <p>今後は、「三股町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、JA都城、北諸県農業改良普及センター、北諸県農林振興局、NOSAI都城、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、堆肥分析や研修会等の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった三股町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>三股町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
宮崎県	都城市	高城地区	都城市	<p>1.バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排泄物の堆肥利用促進のための普及啓発資料作成500部</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 1回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・実証展示圃の設置 1ヶ所 (ウ)畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物処理の実態調査 500戸 ・たい肥及び浄化処理水の成分分析 2件</p>	H17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<p>・畜産農家500戸が、たい肥の利活用の必要を認知した</p> <p>・畜産農家500戸が、家畜排せつ物の適正処理方法を認知した</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：大規模肥育農家の攪拌・発酵施設(石山肉牛組合)における地域の小規模和牛繁殖農家の未熟たい肥受入量を1,460t/年とし、完熟堆肥化した製品のうち1000tを農家へ還元する」についても、平成18年3月に都城市(高城町)の「バイオマス利活用地区計画」を改訂した上で、今後は、「高城町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、都城市高城町、石山肉牛組合、地元畜産農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、完熟たい肥利用促進などの取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった都城市(高城町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>都城市(高城町)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	都城市	山田地区	都城市	<p>1.バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排泄物の堆肥利用促進のための普及啓発資料作成</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 年1回開催 (イ)土づくり普及啓発推進 ・研修会開催 年1回 (ウ)畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物処理の実態調査</p>	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発資料を農家に400部配布 		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標を全て達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定」：中期的方針のうち、家畜排せつ物利用率を80%に改定」についても、平成18年3月に都城市(山田町)の「バイオマス利活用計画」を改訂した上で、関連する取り組みを推進していくこととしており、目標達成は確実である。</p> <p>今後は、「山田町バイオマス利活用地区計画」を基本とし、合併後についても新市全体で都城市、JA、県等関係機関との連携を図りながら廃棄物の減量化、有効利用、良質堆肥の生産、適正管理・適正利用などの取り組みを推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった都城市(山田町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>都城市(山田町)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
宮崎県	都城市	高崎地区	都城市	<p>1.バイオマスの利活用の推進 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 1回</p> <p>・堆きゅう肥利用技術講習会開催 1回</p> <p>(イ)土づくり普及啓発推進 ・良質堆きゅう肥調整技術講習会開催 1回</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・堆きゅう肥利用促進啓発活動 1回</p> <p>・堆肥成分分析 2検体</p> <p>・先進地事例研修 1回</p>	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<ul style="list-style-type: none"> ・畜産5団体が推進した ・農業後継者組織が取得した ・畜産農家後継者40名が取得した ・農家350戸に配布した ・2検体の成分分析を実施した ・研修を実施した 		<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用推進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定」：家畜排せつ物利用率80%以上へ」についても、平成18年2月28日付で、高崎町の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「高崎町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、行政、農協、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図り、堆きゅう肥の品質向上、堆肥を活用した作物の作付体系の確立などの取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった都城市(高崎町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>都城市(高崎町)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	えびの市	えびの地区	えびの市	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ア 普及啓発活動 ・家畜排泄物由来の堆肥利用による農業生産促進のための良質堆肥づくり研修会等の実施。 (研修会及び堆肥共励会 年1回) イ バイオマス利活用優良事例の評価 ・焼酎廃液を用いた飼料作物への除草効果実証圃場設置 (2) バイオマス利活用の中期的方針の策定 ア バイオマス利活用の中期的方針の策定 ・バイオマス利活用地区計画実施のための調査および推進協議会を実施する。月1回 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 イ 土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産実態状況調査 1回 52戸 ・耕種農家の堆肥利用意向調査 1回 ・堆肥利用促進啓発 ウ 畜産環境保全の推進 ・畜産経営環境巡回調査 1回	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・研修会及び堆肥共励会を年1回開催し、200名参加した ・展示圃場10aを設置した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマス利活用の中期的方針」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：地区計画の作成」についても、平成18年3月にえびの市の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。今後は、「えびの市バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、えびの市、えびの市農業協同組合、地元農家等の関係機関と緊密な関係を図った上で、バイオマス利活用協議会の開催や未利用バイオマス利活用実証試験等の取組を推進していく。	事後評価の提出のあったえびの市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	えびの市及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	高原町	高原地区	高原町	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ア 普及啓発活動 ・バイオマス利活用に係る関連情報ホームページ等に掲示し、意見を聴取する 100戸 (2) バイオマス利活用の中期的方針の策定 ア バイオマス利活用の中期的方針の策定 ・バイオマス利活用地区計画実施のための調査および推進協議会を実施する。月1回 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産実態農家調査 年間延べ100戸 (ウ) 畜産環境保全の推進 ・畜産経営環境実態調査 延べ200戸 ・畜産環境啓発資料作成・配布 延べ200戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス利活用に係る関連情報の意見を100戸から聴取した ・バイオマス利活用地区計画を平成17年3月に策定した ・堆肥生産実態農家調査を実施した ・家畜排せつ物適正処理方法を農家200戸理解、周知し、堆肥利活用全体が1%向上した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマス利活用の中期的方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：町内のバイオマスの9割を占める家畜排せつ物利活用について、畜産農家および耕種農家への良質な肥料の生産・流通面での啓発を行なう。啓発を進めていき畜産全体で現状の62%の利活用割合を、年あたり1%ずつ向上を図り、目標70%を達成する。」についても、平成18年3月に高原町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取組を推進していくこととしており、達成は確実である。今後は、「高原町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、高原町、こばやし農業協同組合、地元農家等の関係機関と緊密な関係を図った上で、耕種農家との耕畜連携強化の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった高原町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	高原町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	野尻町	野尻地区	野尻町	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ア 普及啓発活動 ・家畜排せつ物の堆肥利用促進のための普及啓発資料の作成部数 1000部	H17	市町村利活用地区計画の策定		・バイオマス利活用に係わる啓発資料1,000部作成した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマス利活用の中期的方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：地区計画の作成」についても、平成18年3月に野尻町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取組を推進していくこととしており、達成は確実である。 今後は、「野尻町バイオマス利用地区計画」の数値目標達成に向けて、野尻町、こばやし農業協同組合、地元農家等の関係機関と緊密な関係を図った上で、広域家畜ふん尿処理センターである「のじりアグリサービス」を核とした取組を推進していく。	事後評価の提出のあった野尻町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ確実に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	野尻町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
				(2) バイオマス利活用の中期的方針の策定 ア バイオマス利活用の中期的方針の策定 ・バイオマス利活用地区計画実施のための調査および推進協議会を実施する。				・平成18年3月にバイオマス利活用地区計画を策定した					
				(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (ア) バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 年1回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・実証展示ほの設置 2箇所 40a (ウ) 畜産環境保全の推進 ・家畜排せつ物処理の実態調査 2回				・バイオマス利活用推進協議会を年1回開催した ・堆肥生産技術研修会を開催した ・家畜排せつ物法における未整備農家を5戸解消した					
宮崎県	西都市	西都地区	西都市	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 イ バイオマス利活用優良事例の評価 ・先進地視察研修1回	H17	市町村利活用地区計画の策定		・協議会構成団体による優良事例の視察を行い参加者が認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマス利活用の中期的方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標を全て達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物堆肥の市内耕地還元量67,200tに設定する」についても、平成18年3月29日付けで西都市の「バイオマス利活用地区計画」の策定を行ったうえで、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実と思われる。 今後は、「西都市バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、西都市、西都農業協同組合、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、良質堆肥の生産技術研修や土づくり等の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった西都市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ確実に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	西都市及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
				(2) バイオマス利活用の中期的方針の策定 ・中期的方針の策定				・平成18年3月に策定した					
				(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・西都市環境保全型農業推進協議会の開催 年3回 (イ) 土づくり普及啓発推進 d 農家の意向調査 ・堆肥生産実態状況調査 1回 ・家畜排せつ物堆肥の利用に対する農家の意向調査 1回 (ウ) 畜産環境保全の推進 d 家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律等に基づく取組 (b) 畜産環境保全指導 ・畜産農家巡回指導 20戸				・協議会構成団体が堆肥の利活用の必要性を理解した ・調査農家が堆肥利用による土づくりの推進必要性を認知した ・家畜排せつ物の適正処理方法を認知した					

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	新富町	新富地区	新富町	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (2) バイオマス利活用の中期の方針の策定 ・バイオマス利活用検討委員会の開催3回/年</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・新富町家畜排せつ物処理施設整備協議会の開催1回/年</p> <p>(イ) 土づくり普及啓発推進 ・堆肥需要意向調査200戸/年</p> <p>(ウ) 畜産環境保全の推進 ・堆肥生産状況調査20戸/年</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<p>・平成18年3月17日に策定した</p> <p>・畜産農家約200戸がバイオマス利活用の必要性を認知した</p> <p>・農家250戸がたい肥利用による土作りの必要性を認知した</p> <p>・堆肥生産・流通実態調査の実施と畜産環境指導を行った</p>		<p>本事業で設定した「バイオマス利活用の中期の方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマスの利活用のための数値目標の設定: 中期の方針のなかで具体的なバイオマス利用率を決定し、設定する。」についても、平成18年3月17日付けで、新富町の「バイオマス利活用地区計画」の策定を行ったうえで、関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「新富町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、新富町、児湯農業協同組合、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で技術研修などの取り組みを推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった新富町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>新富町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
宮崎県	川南町	川南地区	川南町	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・町内全畜産農家を対象とした家畜排せつ物適正処理対策講習会開催 年2回</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・かがやく畜産21推進協議会の開催 年2回</p> <p>・現地検討会の開催 随時</p> <p>(イ) 土づくり普及啓発推進 ・実証展示圃の設置 ・堆肥分析調査3件</p> <p>(ウ) 畜産環境保全の推進 ・堆肥生産実態、環境に関する実態調査 ・町内畜産農家2戸 ・たい肥分析3件、豚尿処理水質検査6件</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<p>・畜産農家450戸がバイオマス利活用の必要性を認知した</p> <p>・4団体代表が参加し、バイオマス利活用を共同推進した</p> <p>・現地検討会参加農家が良質堆肥の生産技術向上を行った</p> <p>・堆肥利用による土づくりの必要性を認知した</p> <p>・家畜排せつ物適正処理方法を認知した</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解の醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標を全て達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定: 中期の方針のなかで具体的なバイオマス利用率を設定する。」についても、平成18年3月31日付けで川南町の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、これに沿って関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「川南町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、地元農家及び関係機関との緊密な連携を図り、バイオマス利活用の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった川南町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>川南町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	延岡市	延岡地区	延岡市	<p>1. バイオマスの利活用の推進</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進</p> <p>ア 市町村推進事業</p> <p>(イ) 土づくり普及啓発推進</p> <p>・良質たい肥製造技術実証展示 1回</p> <p>(ウ) 畜産環境保全の推進</p> <p>・養豚農家現地指導検討会 5回</p> <p>・酪農家現地指導検討会 2回</p> <p>・堆肥舎設置農家・たい肥センター現地指導・検討会 3回</p> <p>・排せつ物対策技術向上講習会参加</p> <p>・悪臭低減技術実証展示 2回</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<p>・バイオマス利用が促進された</p> <p>・養豚農家10戸の現地指導・検討会を5回行った</p> <p>・酪農家6戸の現地指導・検討会を2回行った</p> <p>・堆肥舎設置農家121戸・堆肥センター現地指導・検討会を4回行った</p> <p>・耕畜連携が促進された</p> <p>・適正な排せつ物処理対策を推進した</p> <p>・養豚農家の悪臭(2地区)を380回簡易観測し、メンテナンス法や悪臭低減資材を選定した</p> <p>・悪臭低減効果現地確認と検討会を4回開催した</p>		<p>バイオマス利活用のための数値目標の設定:</p> <p>平成19年度までに家畜排せつ物の有機肥料センターへの搬入量を総排せつ物量の20%にする。</p> <p>平成19年度までに有機肥料センター製造の水稻基肥用有機肥料の散布面積を3.8haにする。</p> <p>廃棄物系バイオマス利用率27%、未利用系バイオマス利用率6%を目標とした「延岡市バイオマス利活用地区利用計画」を平成18年3月策定した。</p> <p>本事業では、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」を実施し、土づくり普及啓発のための良質たい肥製造技術実証展示、畜産環境保全推進のための養豚農家現地指導検討会や排せつ物対策技術向上講習会参加の他、悪臭低減技術実証展示などを実施した。また、各個別成果指標も達成できた。</p> <p>今後は、「延岡市バイオマス利活用地区計画」に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利用率27%」「未利用系バイオマス利用率6%」を目標年の2010年までに達成できるよう、土づくり推進のための研修会の開催や食品残渣等肥料化などの取組を推進することとしており、目標達成は確実である。</p>	<p>本事業において、延岡市が実施した「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」の取組については、延岡市の評価にあるとおり、事業実施計画で設定した各個別成果指標を全て達成しており、なおかつ目標の達成も確実であると認められる。</p>	<p>延岡市及び宮崎県の評価のとおり、事業実施計画で定めた個別成果指標を全て達成しており、目標の達成も確実であると判断できる。</p>	
宮崎県	日向市	日向地区	日向市	<p>1. バイオマスの利活用の推進</p> <p>(1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成</p> <p>・家畜排せつ物等由来の堆肥利用による農業生産促進のための情報収集及び普及啓発資料250部</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進</p> <p>ア 市町村推進事業</p> <p>(ア) バイオマス利活用推進協議会等の開催</p> <p>・バイオマス利活用推進協議会の開催 4回</p> <p>(イ) 土づくり普及啓発推進</p> <p>・堆肥生産実態調査 1回</p> <p>(ウ) 畜産環境保全推進</p> <p>・畜産経営環境実態調査 50戸</p>	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<p>・農家250戸がバイオマス利活用の必要性を認知した</p> <p>・バイオマス利活用推進協議会に参加した4団体が共同推進した</p> <p>・農家250戸が堆肥利用による土づくり推進の必要性を認知した</p> <p>・農家50戸が家畜排せつ物の適正処理方法を認知した</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用推進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物利用率80%」についても、平成18年3月に日向市の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「日向市バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関との密接な連携を図った上で、耕種サイドとの連携強化や堆肥生産技術向上などの取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった日向市バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これらのための数値目標との連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ確実に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>日向市及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	門川町	門川地区	門川町	1. バイオマスの利活用の推進 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 58戸 ・畜産環境指導マニュアルの作成 100部	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		・農家58戸が家畜排せつ物の適正処理方法を認知した		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定・中期的方針の目標値のうち家畜排泄物利用率80%へ改訂」についても、平成18年3月に門川町の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「門川町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向け、関係機関との緊密な連携を図った上で、環境実態調査やマニュアルの作成などの取組を推進していく。	事後評価の提出のあった門川町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	門川町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	日向市	東郷地区	日向市	1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・堆肥利用による農業生産の促進啓発資料 500部 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会等の開催 ・たい肥利活用推進会議の開催 3回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産実態調査 1回 (ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 1回 ・畜産経営環境実態調査 50戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・農業指導者及び農家500戸が有機物を利用した土づくりの必要性を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標設定・中期的方針の策定と家畜排泄物利用率100%」についても、平成18年3月に日向市(東郷町)の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「東郷町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関との緊密な連携を図った上で、推進会議の開催や実態調査などの取組を推進していく。	事後評価の提出のあった日向市(東郷町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	日向市(東郷町)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	南郷村	南郷地区	南郷村	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物のたい肥利用促進普及啓発資料作成 650部 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 1回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・実証展示圃の設置 1箇所(10a) (ウ) 畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査(対象49戸) 約10戸ずつ×5回	H17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		・農業指導者及び農家650名が堆肥利用による土づくりの必要性を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：平成21年における家畜排せつ物利用率を85%に設定」についても、平成18年3月に美郷町(南郷村)の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「南郷村バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関との緊密な連携を図った上で、推進協議会の開催、畜産経営環境実態調査の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった美郷町(南郷村)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	美郷町(南郷村)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	美郷町	西郷地区	美郷町	1. バイオマスの利活用の推進 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の推進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会等の開催 ・バイオマス利活用協議会の開催 2回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産実態調査 1回 (ウ) 畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 60戸	H17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		・12団体が共同推進を行った ・畜産農家61戸が堆肥余剰分を堆肥供給施設へ搬入することを認知した ・畜産農家61戸が家畜排せつ物の適正処理方法を認知した。		本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：平成21年家畜排せつ物利用率100%」についても、平成18年3月に美郷町(西郷村)の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を実施していくこととしており、目標達成は確実である。 今後は、「西郷村バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関との緊密な連携を図った上で、推進協議会の開催、畜産環境経営実態調査の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった美郷町(西郷村)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	美郷町(西郷村)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	美郷町	北郷地区	美郷町	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物の堆肥利用促進のための普及啓発資料作成500部 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (ア) バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 年1回 ・堆肥生産技術研修会 年1回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・実証展示圃の設置 1圃場20a (ウ) 畜産環境保全推進 ・家畜排せつ物処理の実態調査43戸	H17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		・農家439戸がバイオマス利活用の重要性を認知した ・畜産農家46戸が良質堆肥の生産技術を取得した ・農家450戸が堆肥利用による土づくりの推進必要性を認知した ・畜産農家43戸が家畜排せつ物処理方法を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標もすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：平成21年家畜排せつ物利用率100%」についても、平成18年3月に美郷町(北郷村)の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「北郷村バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、啓発資料作成や、推進協議会の開催等の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった美郷町(北郷村)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	美郷町(北郷村)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	延岡市	北方地区	延岡市	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・環境対策啓発及び事業説明 6回 ・啓発資料作成 60部 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進委員会議の開催 6回 ・農技連携講習会の開催 1回 (ウ) 畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 247戸	H17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		・247戸がバイオマス利活用の必要性を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：平成19年耕種農家に完熟たい肥散布によるたい肥有効利用率90%、平成20年家畜排せつ物利用率95%」についても、平成18年3月に延岡市(北方町)の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「延岡市(北方町)バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、北方町、延岡農業協同組合、(有)延岡地区有機肥料センター、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、土づくり推進のための研修会の開催や食品残渣等肥料化などの取組を推進していく。	事後評価の提出のあった延岡市(北方町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	延岡市(北方町)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	北川町	北川地区	北川町	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排泄物の堆肥化利用による農業生産物の促進のための普及啓発資料 500部 ・協議会等の開催 一式 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・堆肥生産実態状況調査 1回 ・土づくり推進のための研修会開催 3箇所 ・巡回指導 ・資料作成 (ウ) 畜産環境保全の推進 ・畜産経営環境実態調査 40戸	H17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		・農家500戸がバイオマス利活用の必要性を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物利用の目標数値を100%へ改訂」についても、平成18年3月に北川町の「バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「北川町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関との緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物の堆肥利用による農業生産物の促進や土づくり推進のための研修会などの取組を推進していく。	事後評価の提出のあった北川町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	北川町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	延岡市	北浦地区	延岡市	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 3回</p> <p>(ウ) 畜産環境保全の推進 ・畜産経営環境実態調査 39戸 ・畜産環境保全指導 2回 ・畜産環境指導マニュアルの作成 20部</p>	H 17	市町村利活用地区計画に設定されている数値目標のアップ		<ul style="list-style-type: none"> ・8団体がバイオマス利活用を共同推進した ・農家37戸が家畜排せつ物の適正処理方法を認知した 		<p>本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物利用率を70%とする」についても、平成18年3月に延岡市(北浦町)の「バイオマス利用地区計画」の改訂を行った上で、関連する各種の取り組みを推進していくこととしており、目標の達成は可能である。</p> <p>今後は、「北浦町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて延岡市、延岡農業協同組合、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図ったうえで、各種の取り組みを推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった延岡市(北浦町)バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>延岡市(北浦町)及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
宮崎県	諸塚村	諸塚地区	諸塚村	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排泄物の堆肥利用促進のための普及啓発資料作成 50部</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 年1回</p> <p>(イ) 土づくり普及啓発推進 ・実証展示園の設置 1箇所 10a ・堆肥生産実態状況調査 1回 ・バイオマス由来堆肥の利用に対する農家の意向調査 1回</p> <p>(ウ) 畜産環境保全推進 ・畜産環境経営実態調査 46戸</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<ul style="list-style-type: none"> ・畜産農家46戸がバイオマス利活用の重要性を認知した ・畜産農家46戸が良質たい肥の生産技術を取得した ・畜産農家46戸がたい肥利用による土づくりの推進必要性を認知した ・畜産農家46戸が適正な家畜排せつ物適正処理方法を認知した 		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：平成21年までに家畜排せつ物利用率を100%とする」についても、平成18年3月に諸塚村の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「諸塚村バイオマス利活用地区計画」の数値目標の達成に向けて、諸塚村、日向農業協同組合、財団法人ウッドピア諸塚、諸塚村和牛部会、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス利活用の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった諸塚村バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。</p>	<p>諸塚村及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	椎葉村	椎葉地区	椎葉村	1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解達成 ・家畜排泄物の堆肥利用促進のための啓発資料作成 140部 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア) 市町村推進事業 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 年1回 (ウ) 畜産環境保全推進 ・家畜排泄物処理の実態調査 140戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・農家140戸がバイオマス利活用の必要性を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解達成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排泄物利用率を100%に設定する。」についても、平成18年3月に椎葉村の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「椎葉村バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、関係機関との緊密な連携を図った上で、推進協議会の開催、畜産経営環境実態調査の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった椎葉村バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	椎葉村及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	高千穂町	高千穂地区	高千穂町	1. バイオマスの利活用の推進 (2) バイオマス利活用の中期的方針策定 ・バイオマス利活用地区計画の策定検討会開催 10回 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア) 市町村推進事業 ・バイオマス利活用協議会等の開催 ・高千穂町家畜排せつ物処理推進協議会の開催 1回 (ウ) 畜産環境保全推進 ・畜産環境指導ハンドレットの作成 892部	H 17	市町村利活用地区計画の策定	・平成18年3月20日付けで策定した	・関係機関、6組合が一体的に推進した ・農家892戸が家畜排せつ物の適正処理方法を認知した		本事業で設定した「バイオマス利活用の中期的方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関する個別成果指標は全て達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：家畜排せつ物のバイオマス利活用中期的方針の目標値を設定する」についても、平成18年3月に「高千穂町バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。今後は、「高千穂町バイオマス利活用地区計画」の数値目標の達成に向けて、町内関係機関と農協、各農作物部会等との連携を密にし、家畜排せつ物のバイオマス資源としての有効利用推進と資源循環型農業の確立に向けた取組を推進していく。	事後評価の提出のあった高千穂町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	高千穂町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
宮崎県	日之影町	日之影地区	日之影町	1.バイオマスの利活用の推進 (2)バイオマス利活用の中期的方針策定 ・バイオマス利活用地区計画の策定〔年間1回 検討会〕 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア市町村推進事業 ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・家畜排せつ物処理推進協議会の開催〔年間1回 協議会〕 (4)土づくり普及啓発推進 ・堆肥・稲わら等の需給状況調査〔年間1回 全地区〕 ・堆肥の広域散布の効果調査〔年間1回 2ヶ所〕 (5)畜産環境保全推進 ・地域内の畜産経営環境に関する調査〔年間1回 全地区〕 ・畜産環境保全指導〔年間10回 全地区〕	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・平成18年3月17日付で策定し、共同推進を行った ・バイオマスの有効利活用に向けた対策の検討を行い目標達成に向けた共同推進を行った ・管内の堆肥と稲わらの需給状況の調査を行い、両者の効率的利用に向けた話題の検討を行った ・マニュアルによる堆肥散布の実用性調査を行い普及拡大の検討を行った ・アンケートによる調査を行い、問題の解消に向けた、現地巡回による指導・助言を行った		本事業で設定した「バイオマス利活用の中期的方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、「バイオマス利活用のための数値目標の設定：バイオマス(家畜排せつ物)利活用のための数値目標を現状維持の100%とし、今後は耕住農家と畜産農家の連携(耕畜連携)を強化し、バイオマス(家畜排せつ物)利活用単位を個別から集団へ拡大し、利活用の効率化を図る」についても、平成18年3月に「日之影町バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は「日之影町バイオマス利活用地区計画」の数値目標の達成に向けて、協議会を中心に各関係機関と連携を密にし、家畜排せつ物のバイオマス資源としての有効利用と資源循環型農業経営の確立などの取組を推進していくこととした。	事後評価の提出のあった日之影町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	日之影町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
宮崎県	五ヶ瀬町	五ヶ瀬地区	五ヶ瀬町	1.バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・啓発資料作成 700部 (2)バイオマス利活用の中期的方針の策定 ・バイオマス利活用地区計画の策定 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア市町村推進事業 ア)バイオマス利活用協議会等の開催 ・五ヶ瀬町資源循環型畜産確立推進委員会の開催 2回 ・バイオマス利活用先進地視察研修 1回 ・良質たい肥化技術講習会の開催 3地区 (5)畜産環境保全実態調査 ・畜産環境保全実態調査(畜産農家) 162戸 ・畜産環境保全指導マニュアルの作成 170部	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・農家700戸が家畜排せつ物バイオマス利活用による畜産環境保全を認知した ・平成18年3月に策定した ・家畜排せつ物バイオマス利活用による畜産環境保全の推進を図った ・162名良質堆肥の生産技術を習得し畜産環境保全の推進を図った ・畜産農家162名が畜産環境保全の実態を把握した ・畜産農家162名が家畜排せつ物の適正な処理方法を習得した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマス利活用の中期的方針の策定」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関する個別指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の目標値を設定する」についても、平成18年3月に「五ヶ瀬町バイオマス利活用地区計画」を策定し、今後関連する取組を推進することとしており、目標の達成は確実である。 今後は、「五ヶ瀬町バイオマス利活用地区計画」の数値目標の達成に向けて、関係機関及び畜産農家・耕種農家が一体となり、バイオマス利活用の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった五ヶ瀬町バイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、「宮崎県バイオマス総合利活用マスタープラン」に位置づけているバイオマス利活用の目標に向けた取組が推進されるものと思慮する。	五ヶ瀬町及び宮崎県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
鹿児島県	-	鹿児島県地区	鹿児島県	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・持続性の高い生産方式促進資料 1,200部 ・環境にやさしい農業推進資料 1,200部 ・バイオマス利活用の推進のための講演会の開催 1回 ・堆肥利用のための技術講習会の開催 1回 ・持続的農業推進ブロック研修会 5地区 ・良質堆肥生産技術共励会の開催 1回 ・堆肥生産利用技術のための研修会 1回 ・土づくり普及啓発資料の作成 350部</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 県推進事業 (ア) バイオマス利活用協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会等の開催 3回</p> <p>(イ) 土づくり普及啓発 ・堆肥生産実態状況調査 1回 ・土壌分析機器整備 一式 (ウ) 畜産環境保全推進 ・畜産環境保全巡回指導 1,000戸 (キ) 使用済資材適正処理推進 ・使用済生産資材の適正処理状況調査 1回 ・使用済資材適正処理推進のための現地指導 12地区 イ 県試験研究事業 (ア) 土づくり ・土壌定点調査 50地点 ・環境保全土壌管理調査 2地区 ・有機物連用基準設定試験 1地区 ・地力増進地域調査 1地区</p>	H 17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		<p>・農業者、農業関係者がバイオマス利活用の必要性を認識した</p> <p>・バイオマス利活用協議会を3回開催し、27団体の関係者が利活用を推進した</p> <p>・県内農業者が堆肥利用による土づくり推進の必要性を認知した</p> <p>・畜産農家1,037戸が家畜排せつ物の適正処理を周知した</p> <p>・年2回農業用廃プラスチック類の回収を行い、適正処理を周知した</p> <p>・家畜排せつ物等由来堆肥を利用した環境負荷低減対策の技術確立を推進した</p>	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」「県試験研究事業」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：バイオマス利活用の中期的方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行」についても、平成17年3月に策定した「鹿児島県バイオマス利活用指針」に基づき、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「鹿児島県バイオマス利活用指針」の数値目標達成に向けて、県をはじめ、県内市町村、農協や食品廃物等関連事業者、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス利活用に向けた取組を推進していく。</p>	鹿児島県の総合評価のとおりに、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。			

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
鹿児島県	-	鹿児島県全域地区	鹿児島県経済農業協同組合連合会	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・普及啓発活動 ・栽培技術講演会の開催(5回) ・優良完熟堆肥活用技術普及促進資料 1000部 ・栽培技術現地研修会の開催100回</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 都道府県推進事業 ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 2回 ・優良完熟堆肥製造及びバイオマス肥料化技術の実証・製品普及(2箇所) イ) 土づくり普及啓発推進 ・良質堆肥活用に関する農家の意向調査 1回 ・良質堆肥活用施肥改善実証ほ場の設置 15箇所 45a</p>	H17	都道府県マスタープランの工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		<p>・農家540戸が認知し、営農指導員33名を育成した</p>	<p>・4団体が協同推進した</p> <p>・2農協で技術を習得し、良質な肥年間6,500トン、肥料400トン製造し、普及を始めた</p> <p>・農家540戸が堆肥利用による土づくり推進の必要性を認知した</p>	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針のうち廃棄物系バイオマスの利活用率を60%から80%へ改訂」についても、平成17年3月25日付で、「鹿児島県バイオマス利活用指針」の改訂を行った上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「鹿児島県バイオマス利活用指針」の数値目標達成に向けて、拠点4農協や地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、良質堆肥製造技術や肥料化技術に基づく廃棄物系バイオマスの利活用に取り組みとともに、良質堆肥活用施肥改善栽培技術の普及により、良質堆肥活用量の増大などの取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった鹿児島県経済農業協同組合連合会のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ適確に実施していくこととしており、鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取り組みが推進されるものと考えられる。</p>	<p>鹿児島県経済農業協同組合連合会及び鹿児島県の総合評価のとおりに、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
鹿児島県	出水市	出水地区	出水市	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1) 地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・普及啓発活動 ・環境保全型農業推進資料2,000部 (1,000部×2種) ・啓発資料の作成 100部 ・技術講習会の開催 2回</p> <p>(3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 ア) バイオマス利活用推進協議会等の開催 ・協議会の開催 2回 ・専門部会の開催 2回 ・技術普及等の実践活動 イ) 土づくり普及啓発推進 ・畜産農家実態調査実施 1回 ・耕種農家の意向調査 1回 ウ) 畜産環境保全の推進 ・家畜経営環境実態調査 170戸 ・家畜排せつ物処理利用状況調査 1回 ・水質汚濁につながる窒素等の水質検査 ・現地指導 2回</p>	H17	市町村利活用地区計画の策定		<p>・農家2,000戸が認知した</p>	<p>・協議会を開催し、堆肥等の利活用の検討を行った</p> <p>・農家100戸が土づくりの必要性を周知した</p> <p>・農家170戸が家畜排せつ物の適正処理を周知した</p>	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標を全て達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用の数値目標の設定：中期的方針の数値目標のうち家畜排せつ物利用率を75%へ改訂」についても、平成18年1月に「出水市バイオマス利活用地区計画」の改訂を行った上で、普及啓発や各種調査の取り組みを推進することとしており、目標達成は確実である。</p> <p>今後は、「出水市バイオマス利活用地区計画」に明記された目標を達成できるよう、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス利活用についての各種の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった出水市のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取り組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ適確に実施していくこととしており、鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取り組みが推進されるものと考えられる。</p>	<p>出水市及び鹿児島県の総合評価のとおりに、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
鹿児島県	鹿屋市	輝北地区	鹿屋市	1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 バイオマス利活用のための技術講習会・講演会 1回	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・関係農家50戸が理解促進した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」, 「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標を全て達成しており, なおかつ, 目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定: バイオマス利活用のための数値目標の設定(取組工程の履行)」についても, 平成17年3月17日に策定した「輝北町バイオマス利活用地区計画」に沿って, 技術講習会・講演会の開催, 現地指導, 良質堆肥の実証ほ, 生分解性マルチの実証ほなどの取り組みにより, 耕種農家・畜産農家ともにバイオマスの利活用及び農業用使用済プラスチックの適正処理に伴う分別処理等に対する意識が高まっていることから, 目標の達成は確実である。 今後は, 「輝北町バイオマス利活用地区計画」に明記された「廃棄物系バイオマス100%、未利用バイオマス100%」を目標年である2010年までに達成できるよう, 地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で, バイオマス利活用についての各種の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった鹿屋市(輝北町)のバイオマスの環づくり交付金事業については, 点検評価した結果, 以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ, これら市町村等の取り組みを図り, バイオマス関連施策を効率的かつ適確に実施していくこととしており, 鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取り組みが推進されるものと考え。	鹿屋市(輝北町)及び鹿児島県の総合評価びとあり, 事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり, 今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
				(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会等の開催 バイオマス利活用協議会等の開催 2回 バイオマス利活用のための現地指導 3回 (イ) 土づくり普及啓発 良質堆肥利用実証ほの設置 2カ所, 10a (キ) 使用済み資材の適正処理推進 4カ所, 10a				・協議会を2回開催した ・2カ所(10a)で実証を行い, 良質堆肥生産・適正利用の啓発を図った ・4カ所(10a)で実証を行い, 栽培指針の検討やバイオマス製品の普及に向け啓発を図った					
鹿児島県	鹿屋市	鹿屋地区	鹿屋市	1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・土づくり講演会 12回	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・土づくり啓発資料を1,000部作成し, 講演会等で堆肥を利用した土づくりを推進した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」, 「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標を全て達成しており, なおかつ, 目標である「バイオマス利活用の数値目標の設定(改訂): 中期的方針の目標値のうち家畜ふん尿利活用率を59%へ改訂」についても, 平成18年3月に「鹿屋市バイオマス利活用地区計画」を改訂した上で, バイオマス利活用の各種取組により耕種農家・畜産農家ともにバイオマスの利活用等に対する意識が高まっており, 目標の達成は確実である。 今後は, 「鹿屋市バイオマス利活用地区計画」に明記された「家畜ふん尿利活用率を60%」を目標年である2010年までに達成できるよう, 地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で, バイオマス利活用についての各種の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった鹿屋市のバイオマスの環づくり交付金事業については, 点検評価した結果, 以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していることと認められる。本事業結果を踏まえ, これら市町村等の取り組みとの連携を図り, バイオマス関連施策を効率的かつ適確に実施していくこととしており, 鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取り組みが推進されるものと考え。	鹿屋町及び鹿児島県の総合評価のびとあり, 事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり, 今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
				(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア) バイオマス利活用推進協議会等の開催 ・環境保全型農業推進協議会の開催 年1回 (イ) 土づくり普及啓発 ・土壌診断に基づく土づくりの推進土壌診断件数 約800件				・当農技術検討会を11回開催した ・土壌条件に応じた土づくりを推進した					

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
鹿児島県	垂水市	垂水地区	垂水市	1. バイオマスの利活用への推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・畜産指導マニュアル 115部 ・堆肥づくり検討会 牛12戸 豚6戸 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 ウ 畜産経営実態調査 115戸	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・農家18戸が家畜排せつ物の適正処理方法を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用促進」に関連する個別成果指標を達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定:バイオマス利活用地区計画の策定」についても、平成18年3月13日付けに策定した「垂水市バイオマス利活用地区計画」に沿って、関連するバイオマス利活用の取組を推進することとしていることから、目標達成は確実である。 今後は、「垂水市バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、技連会、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、環境保全に配慮した経営・環境などのバイオマス利活用についての各種の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった垂水市のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成しているものと認められる。本事業結果を踏まえ、これかの市町村等の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取組みが推進されるものと考ええる。	垂水市及び鹿児島県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	
鹿児島県	瀬戸内町	瀬戸内地区	瀬戸内町	1. バイオマスの利活用への推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物を中心とした堆肥利用による農業生産の促進のための普及啓発資料 70部 ・バイオマス利活用研修会の開催 1回 ・有機物処理・有効利用に関する先進事例調査 1回 ・高品質堆肥化技術研修会 1回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 2回 ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 45戸 1回 ・有機物処理・利用等施設整備推進のための現地調査 1回 ・耕種農家の意向調査 50戸 ・高品質堆肥化生産のための畜産農家の巡回指導 2回	H 17	市町村利活用地区計画の策定		・農家45戸がバイオマス利活用の必要性を認知した		本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の推進」に関する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定:バイオマス利活用地区計画の策定」についても、平成18年3月17日付けで「瀬戸内町バイオマス利活用地区計画」を策定した上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。 今後は、「瀬戸内町バイオマス利活用計画書」の数値目標に向けて、関係機関、畜産農家、耕種農家との連携を図り、家畜排せつ物等の適正処理や利用率の向上、良質堆肥の生産向上及び良質堆肥を活用した健全な土づくりを推進するとともに、バイオマス利活用の取組を推進していく。	事後評価の提出のあった瀬戸内町のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成しているものと認められる。本事業結果を踏まえ、これかの市町村の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており、鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取組みが推進されるものと考ええる。	瀬戸内町及び鹿児島県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
鹿児島県	龍郷町	龍郷地区	龍郷町	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物を中心とした堆肥利用による農業生産の促進のための普及啓発資料 50部 ・バイオマス利活用研修会の開催 2回 ・有機物処理・有効利用に関する先進事例調査 1回 ・高品質堆肥化技術研修会 1回</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 2回</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 28戸 1回 ・有機物処理・利用等施設整備推進のための現地調査 1回 ・耕種農家の意向調査 30戸 ・高品質堆肥化生産のための畜産農家の巡回指導 3回</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<p>・農家50戸がバイオマス利活用の必要性を認知した</p> <p>・3団体が共同推進を行った</p> <p>・農家28戸が家畜排せつ物の適正処理について認知した</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ目標である「バイオマスの利活用のための数値目標設定：バイオマス利活用地区計画の策定」についても、平成18年3月17日付けに「龍郷町バイオマス利活用地区計画」を策定した上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標達成は確実である。</p> <p>今後は、「龍郷町バイオマス利活用計画書」の数値目標に向けて、関係機関と緊密な連携を図りながら、家畜排せつ物等の適正処理・利用率の向上、良質堆肥の生産向上及びバイオマスの利活用に向けた理解促進を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった龍郷町のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これが市町村の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ的確に実施していくこととしており、鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取組みが推進されるものと考ええる。</p>	<p>龍郷町及び鹿児島県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
鹿児島県	奄美市	笠利地区	奄美市	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物を中心とした堆肥利用による農業生産の促進のための普及啓発資料 70部 ・有機物処理・利用等施設整備推進現地調査 1回 ・有機物処理・有効利用に関する先進事例調査 1回 ・技術普及等の実践活動・研修会 2回</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 2回 ・現地指導 3回</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・畜産農家への意識調査 1回 ・畜産農家の巡回指導の実施 2回</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<p>・農家70戸がバイオマス利活用に向けた理解促進を認知した</p> <p>・バイオマス推進協議会が協同推進した</p> <p>・農家36戸が家畜排せつ物の適正処理・利用促進を認知した</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマスの利活用のための数値目標設定」についても、平成18年3月14日付けで「笠利町バイオマス利活用地区計画」を策定した上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標の達成は確実である。</p> <p>今後は、「笠利町バイオマス利活用計画書」の数値目標に向けて、関係機関と緊密な連携を図りながら、家畜排せつ物等の適正処理・利用率の向上、良質堆肥の生産向上及びバイオマスの利活用に向けた理解促進を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった奄美市(笠利町)のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これが市町村の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効果的かつ的確に実施していくこととしており、鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取組みが推進されるものと考ええる。</p>	<p>奄美市(伊仙町)及び鹿児島県の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
鹿児島県	喜界町	喜界地区	喜界町	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物を中心とした堆肥利用による農業生産の促進のための普及啓発資料 90部 ・有機物処理・利用等施設整備推進現地調査 2回 ・高品質堆肥化技術研修会 1回</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 2回</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 5戸, 1回 ・有機物処理・利用等施設整備推進のための現地調査 1回 ・耕種農家の意向調査 10戸 ・高品質堆肥生産のための畜産農家の巡回指導 2回</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<p>・農家70戸がバイオマス利活用に向けた理解促進を認知した</p> <p>・2団体が共同推進した</p> <p>・農家70戸が家畜排せつ物の適正処理・利用促進について認知した</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」, 「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており, なおかつ, 目標である「バイオマスの利活用のための数値目標の設定: バイオマス利活用地区計画の策定」についても, 平成18年3月28日付で「喜界町バイオマス利活用地区計画」を策定した上で, 関連する取組を推進していくこととしており, 目標達成は確実である。</p> <p>今後は, 「喜界町バイオマス利活用計画書」の数値目標に向けて, 関係機関と緊密な連携を図った上で, 家畜排せつ物等の適正処理や利用率の向上, 良質堆肥の生産向上及び良質堆肥を活用した健全な土作りを推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった喜界町のバイオマスの環づくり交付金事業については, 点検評価した結果, 以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ, これら市町村の取組みとの連携を図り, バイオマス関連施策を効率的かつ的確に実施していくこととしており, 鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取組みが推進されるものと考ええる。</p>	<p>喜界町及び鹿児島県の総合評価のとおりに, 事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり, 今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	
鹿児島県	伊仙町	伊仙地区	伊仙町	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・環境保全型農業推進資料 1,753部 ・畜産環境保全推進資料 650部 ・技術講習会の開催 3回 ・啓発資料の作成 1,753回 ・先進事例調査 2回</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・協議会の開催 5回</p> <p>(イ)土づくり普及啓発推進 ・有機物及び土壌改良材投入実証ほの設置 7カ所, 10a ・生育調査の実施 6回 ・実証ほの現地指導 3回</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・農家の意向調査 1回 ・有機物処理・利用等施設整備推進現地調査の実施 1回 ・現地調査 2回</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<p>・農家1,753戸がバイオマス利活用に向けた理解促進を図った</p> <p>・平成18年3月31日策定した</p> <p>・実証ほを設置し土づくりの啓発を推進した</p> <p>・各種調査の実施を行った</p>		<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」, 「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており, なおかつ, 目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定: バイオマス利活用計画に関する数値目標を設定した「利活用地区計画」を策定」についても, 平成18年3月31日に「伊仙町バイオマス利活用地区計画」を策定し, 目標年である2010年までに目標が達成できるよう普及啓発や各種調査の取組を推進することとしており, 目標達成は確実である。</p> <p>今後は, 「伊仙町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて, 伊仙町, 地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で, バイオマス利活用についての各種の取組を推進していく。</p>	<p>事後評価の提出のあった伊仙町のバイオマスの環づくり交付金事業については, 点検評価した結果, 以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ, これら市町村等の取組みとの連携を図り, バイオマス関連施策を効率的かつ適確に実施していくこととしており, 鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取組みが推進されるものと考ええる。</p>	<p>伊仙町及び鹿児島県の総合評価のとおりに, 事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり, 今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。</p>	

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
鹿児島県	天城町	天城地区	天城町	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・家畜排せつ物を中心とした堆肥利用による農業生産の促進のための普及啓発資料 500部 ・バイオマス利活用研修会の開催 1回 ・有機物処理・有効利用に関する先進事例調査 3回 ・高品質堆肥化技術研修会 1回</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 1回</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・畜産経営環境実態調査 430戸, 1回 ・有機物処理・利用等施設整備推進のための現地調査 2回 ・耕種農家の意向調査 430戸 ・高品質堆肥生産のための畜産農家の巡回指導 12回</p>	H 17	市町村利活用地区計画の策定		<ul style="list-style-type: none"> ・農家430戸がバイオマス利活用の必要性を認知した 	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマスの利活用のための数値目標の設定：バイオマス利活用地区計画の策定」についても、平成18年3月31日付で、「天城町バイオマス利活用地区計画」を策定した上で、関連する取組を推進していくこととしており、目標達成は確実である。 今後は、「天城町バイオマス利活用計画書」の数値目標に向けて、関係機関と緊密な連携を図った上で、家畜排せつ物等の適正処理や利用率の向上、良質堆肥を活用した健全な土づくりを推進していく。</p>	事後評価の提出のあった天城町のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これか市町村の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ確に実施していくこととしており、鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取組みが推進されるものと考ええる。	天城町及び鹿児島県の総合評価のとおりに、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。		
鹿児島県	和泊町	和泊地区	和泊町	<p>1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・環境保全型農業推進資料 1,000部 ・畜産環境保全推進資料 290部 ・啓発資料の作成 1,000部 ・先進地事例調査</p> <p>(3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・協議会の開催 5回 ・技術普及等の実践活動 5回</p> <p>(イ)土づくり普及啓発 ・土壌分析の実施 2,000件 ・実証展示ほの設置 2ヶ所各 20a</p> <p>(ウ)畜産環境保全推進 ・農家の意向調査 ・有機物処理・利用等施設整備推進現地調査 ・現地指導 2回</p>	H 17	市町村利活用地区計画の工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		<ul style="list-style-type: none"> ・農家1,290戸にバイオマス利活用に向けた理解促進を図った 	<p>本事業で設定した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行」については、平成17年3月に策定した「和泊町バイオマス利活用地区計画」に沿って目標年である2010年までに目標が達成できるよう普及啓発や現地指導・調査などの取組を推進することとしており、目標達成は確実である。 今後は、「和泊町バイオマス利活用地区計画」の数値目標達成に向けて、和泊町、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス利活用についての各種の取組を推進していく。</p>	事後評価の提出のあった和泊町のバイオマスの環づくり交付金事業については、点検評価した結果、以下のとおり個別成果指標及び目標を達成していると認められる。本事業結果を踏まえ、これら市町村等の取組みとの連携を図り、バイオマス関連施策を効率的かつ適確に実施していくこととしており、鹿児島県バイオマス利活用指針に位置づけられている目標に向けた取組みが推進されるものと考ええる。	和泊町及び鹿児島県の総合評価のとおりに、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標の達成は確実であり、今後ともバイオマス利活用の推進に向けた取組の展開が期待できる。		

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	都道府県	農政局等	
鹿児島県	知名町	知名地区	知名町	1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・普及啓発資料 440部 ・先進事例調査 2回 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・協議会の開催 2回 ・技術普及等の実践活動・研修会 5回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・有機物投入の実証展示ほの設置 1カ所 各10a (ウ)畜産環境保全推進 ・農家の意向調査 ・有機物処理・利用等施設整備推進現地調査 ・現地指導 2回	H17	市町村利活用地区計画の工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		・農家440戸がバイオマス利活用に向けた理解促進を図った ・協議会の開催により、家畜排泄物の処理、利用の推進を図った ・実証ほを1カ所設置し、農家に土づくりの推進を図った ・技術講習会を開催した		バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行 平成17年3月に策定した「知名町バイオマス利活用地区計画」で定めた目標を達成するための取組を行った。 本事業では、「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」を実施し、バイオマス利活用普及啓発資料の作成及び配布、研修会等での情報提供など地域の耕種・畜産農家への理解醸成を行った。また、個別成果指標を達成した。 今後は、これらの取組結果を「知名町バイオマス利活用地区計画」に反映し、普及啓発や講習会の開催などの取組を推進することとしており、目標達成は確実である。	本事業において、知名町が実施した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」の取組については、知名町の評価にあるとおり、事業実施計画で設定した各個別成果指標を全て達成しており、なおかつ、目標の達成も確実であると認められる。	知名町及び鹿児島県の評価の とおり、事業実施計画で定めた 個別成果指標を全て達成して おり、目標の達成も確実であると判 断できる。	
鹿児島県	与論町	与論地区	与論町	1. バイオマスの利活用の推進 (1)地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成 ・持続性の高い生産方式促進資料の作成 939部 ・畜産環境保全推進資料349部 ・技術講習会の開催 2回 ・土づくりの啓発資料作成100部 ・先進地事例調査 (3)バイオマスの種類に応じた利活用の促進 ア 市町村推進事業 (ア)バイオマス利活用推進協議会の開催 ・協議会の開催 2回 (イ)土づくり普及啓発推進 ・農家の意向調査 1回 ・緑肥作物の実証ほ設置 1ヶ所、10a ・土壌分析機器 一式 (ウ)畜産環境保全の推進 ・畜産経営環境実態調査 349戸 ・堆肥生産の現地指導 2回	H17	市町村利活用地区計画の工程表のうち実施期間中の工程部分の履行		・農家939戸がバイオマスを知りた ・協議会を2回開催し、バイオマスの推進を図った ・土づくりの必要性の啓発を推進した ・畜産環境保全の推進を行った		バイオマス利活用のための数値目標の設定：中期的方針の工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行 平成17年3月に策定した「与論町バイオマス利活用地区計画」で定めた目標を達成するための取り組みを行った。 本事業では、「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」を実施し、バイオマス利活用啓発資料の配布、畜産環境保全推進資料の配布、良質堆肥づくり研修会、土壌分析機器の整備などの取り組みを行った。また、各個別成果指標も達成できた。 今後は、これらの取り組み結果を「与論町バイオマス利活用地区計画」に反映し、普及啓発や実証ほの設置、技術指導などの取り組みを推進することとしており、目標達成は確実である。	本事業において、与論町が実施した「地域関係者へのバイオマス利活用の理解醸成」、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」の取組については、与論町の評価にあるとおり、事業実施計画で設定した各個別成果指標を全て達成しており、なおかつ、目標の達成も確実であると認められる。	与論町及び鹿児島県の評価の とおり、事業実施計画で定めた 個別成果指標を全て達成して おり、目標の達成も確実であると判 断できる。	